

# 市のまち

地名の由来

No.31



鳥居の奥にあるのが弁天様を祭った祠と船霊の宮

東西線行徳駅前の西側に弁天公園があり、この公園の一角のこんもりと茂った大樹の下に、弁天様を祭った祠（ほころ）と船霊の宮とが並んで建っています。昔はここを弁天山と称して、小高くなっていました。弁天公園の名称は、この弁天山からとったものです。

この地域は区画整理が行われ、住居表示の実施で現在は行徳駅前となりましたが、実は「湊」の地名の起ころは、この弁天山が船着場になっていたところから付けられたものなのです。江戸時代初期の行徳海岸は、現在の東西線よりも、もっと西側にあったと推定されます。その海岸で塩焼きが行われ、やがて大規模な塩田が造成されて、塩の生産が高められていきました。しかし、行徳での製塩には、たくさんの燃料を必要としました。その燃料は、

## 塩の輸送でにぎわう

湊・湊新田

五大力船と呼ばれた輸送船によって上総方面からこの湊に運ばれ、船着場はたいそう賑（にぎ）わったようです。

江戸名所図会には「弁財天祠……湊村にありて、昔は塩除堤の松林の下にあり、弁天山と称して石の小祠あり……古この地大船入津の湊なり……」とあります。

この湊付近は、北条氏の家臣であった青山家貞によって開発され、寛永二年（一六二五）善照寺が建立されました。山号は、青山家の青を取って青陽（よう）山と号しました。さらに、万治元年（一六五八）、家貞の子吉貞は一族の菩提を弔うため、五智如来像を造立しました。その立派な石像は今日に伝えられています。湊新田は、元禄年間（一六八八〜一七〇四）に湊村から独立してできた村です。両村とも、江戸時代は盛んに製塩の行われた地域でした。

明治二十二年南行徳村に属し、昭和三十一年市川市に合併、同四十三年から五十年にかけて南行徳第二、第三土地区画整理組合による区画整理事業が実施され、五十二年住居表示の実施で現在の湊が、五十四年の住居表示で湊新田が誕生しました。

万葉集に「葛飾の真間の浦廻を漕ぐ船の船人騒ぐ波立つらしも」の歌がありますが、この真間の浦は古代の行徳海岸を指したもので、なにかミナト近くの様子がうかがえます。だとすると、ミナトは一体どこにあったのでしょうか。行徳の湊の地域が推定できないでしょうか、はなはだ興味のある歌です。

次回は「大町」を予定しています。

（社会教育指導員

綿貫喜郎）